



巨人

amateur
draft meeting
designation order

1位

八戸学院大学 / 投手

高橋 優貴

大学で開花し奪三振記録樹立の152キロ左腕



5年ぶりのVが命題の巨人が2人の野手を外した後にサブライズ指名したのは全国未経験の左腕。大学で初めてエースとなった、控え選手は「プロになれる」という恩師の言葉を胸に、敗戦を糧にしてきた。

(取材・文 高橋昌江)

まさかの1位指名

根尾昂（大阪桐蔭→中日1位）、辰巳涼介（立命館大→楽天1位）を抽選で外した巨人が3回目の入札で指名したのは八戸学院大の左腕・高橋優貴だった。

え？

耳に入ってきた名前、テレビ画面に映し出されている名前を見て、高橋本人は驚いた。思わぬ順位での指名に、「4年間の頑張りが評価された」と涙も溢れてきた。

予想外だったのは本人だけではない。金足農・吉田輝星（日本ハム1位）を指導したことで一躍有名になった八戸学院大・正村公弘監督も同じだ。ドラフト会議直前にテレビの取材を受けていた正村監督、それも、吉田に関するコメントを求められてのものだった。

「計算では、吉田が外れの1位で、高橋は2位くらいだから、そのタイムラグで高橋のところに行けるなと思ったの」

八戸学院大硬式野球部の寮「飛

天寮」の2階で取材を受け、高橋が待機していた1階の管理入室に入った瞬間、食堂から「ウーッ！」という歓声上がり、目の前には驚いている高橋がいた。

その数分後、無数のフラッシュを浴びながら、高橋は記者会見場に姿を表した。壇上に上がると、「ドラフト1位という光栄な順位

で選ばれて本当に嬉しく思います。自分の目標は1軍で活躍することなので、これからも練習を重ねて日々、頑張っていきたいです。」と挨拶。会見では「1位指名を受けて」「巨人のイメージは？」「自分の持ち味は？」など、次から次へと飛ぶ記者からの質問に回答。おそらく、彼の人生で最

も注目を浴びた時間だった。

家族が〇〇ファン

プロ志望届に名前を書く時は「まさか自分かこれを書くとは」と思ったという。小さい頃から地元では有名で、背番号は常に「1」。甲子園常連校から大学へ……。そんなエリート街道を歩んできたわけではない。中学、高校とエースナンバーを背負ったことはなく、全国大会の出場もない。

野球を始めたきっかけは家族の影響だった。「家系が阪神ファンなんです」。母方の祖父が関西の出身。父・幸司さんも阪神ファンだった。

生まれた時から阪神の試合を見